

## 2020 年度夏期研修会 講演概要(第 1 講座～第2講座) No.1

### 第1講座 「拡散するネガティブ情報と収斂させてはいけない学びの機会」

公益財団法人反差別・人権研究所みえ 常務理事兼事務局長 松村 元樹さん

マイノリティが発信すると「偏っている」といわれることがある。マジョリティの側から取り組むことで「中立」とみなされやすいということを認識してほしい。そして、「自分の優位さ、特権を自覚する」「マイノリティの生きづらさをマジョリティの責任において知っていく」ことについて考えてもらい、そもそも「知らないことに課題意識をもっていこう」と呼びかけたい。この研修が「差別の本質にせまれるような人権教育の創造」につながればと思う。

### 第2講座 「人権教育の基礎づくりと道徳」

じんけん SCHOLA(すこら)共同代表 元大阪市立大学教授 上杉 聡さん

人権教育の一環として「部落差別」をはじめとする、差別を撤廃するための教育を行う事は、小学校高学年以降の課題となります。しかしそれ以前の小学校低・中学年において、また高学年以降においても人権教育に取り組み、差別を乗り越える人権的な心性を培う基礎的な教育を行うことは、今の道徳教育の中に可能性として大きく含まれています。本講演は、それを実現する「方法・考え方」について、明確で具体的に提案をしたいと思います。

## 2020 年度夏期研修会 講演概要(第3講座～第4講座) No.2

### 第3講座 「子どもの人権から見た特別支援教育

～インクルーシブ教育と特別支援教育の違い～

大阪経済法科大学客員研究員 一木 玲子さん

街を歩いていると「マスクをしていない人お断り」というお店の看板が溢れている。では、感覚過敏や障害の特性によりマスクができない、しにくい人はどうすればいいのか。我々の身近に人権問題は溢れている。どのような属性や特性があろうと、どの子どもも区別、排除、制限しないインクルーシブ教育が国際的な人権基準である。日本の子どもは人権が尊重されているのか。インクルーシブ教育の定義を確認しながら、日本の特別支援教育を振り返りたい。

### 第4講座 「性の多様性から『じぶん』について考える」

～誰もが排除されない社会を目指して 子どもたちとの出会いから見えてきたこと～

にじいろ i-RU(アイル) 田中 一歩さん 近藤 孝子さん

わたしたちがいろんな人との出会いの中で感じてきた「性の多様性」について、「わたしと性」「わたしにとって性って？」などお話しします。出前講座で出会った子どもたちから見えてきた「性に対して持たされている偏見」。そして自分の中にある偏見と向き合っている子どもたちの様子。性の多様性から「あたりまえってなんだろう?」「じぶんはどうだろう?」と考える子どもたちの具体的な話からわたしたち大人も「じぶんと性」「じぶんの性」について深く考えてみませんか?